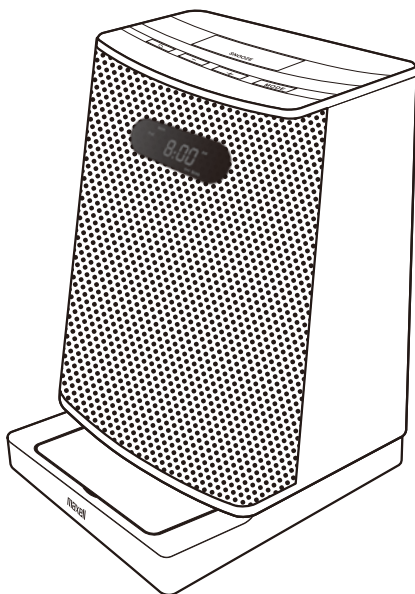
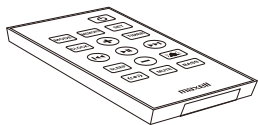
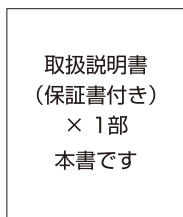
maxell

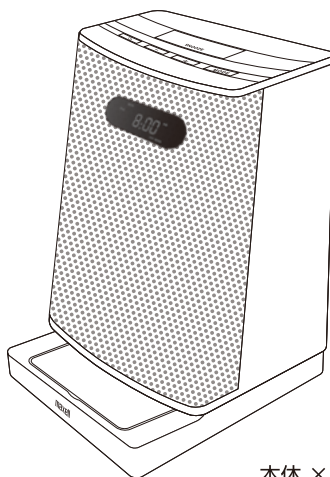
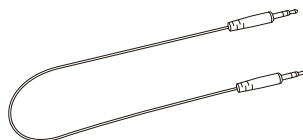
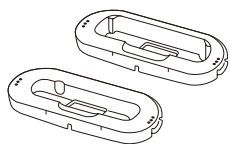
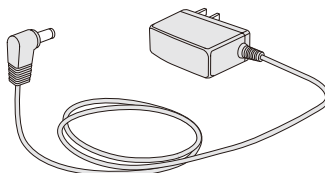
アクティブスピーカー
MXSP-2200WM

取扱説明書 保証書付

Ver. 1.0

このたびはマクセル製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
また、この取扱説明書(保証書を含みます)は大切に保管してください。

目次

1. 梱包品の確認

リモコン × 1個
（CR2032電池×１個付属）

本体 × 1台

取扱説明書
（保証書付き）
× 1部
本書です

FMアンテナ ×1本
（150cm）

直径3.5mmステレオミニプラグケーブル ×1本
（30cm）

アタッチメントA×1個
アタッチメントB×1個

ＡＣアダプター × 1個

2. はじめに

取扱説明書をお読みになるにあたって

- この取扱説明書については、将来予告なしに変更することがあります。
- 製品改良のため、予告なく外観または仕様の一部を変更することがあります。
- この取扱説明書につきましては、万全を尽くして製作しておりますが、万一ご不明な点、誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
- この取扱説明書の一部または全部を無断で複写することは、個人利用を除き禁止されております。また無断転載は固くお断りします。

免責事項（保証内容については保証書をご参照ください）

- 火災、地震、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用による損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 保証書に記載されている保証がすべてであり、この保証の外は、明示の保証・黙示の保証を含め、一切保証しません。
- この取扱説明書で説明された以外の使い方によって生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 接続機器との組み合わせによる誤作動などから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 本製品は、医療機器、原子力機器、航空宇宙機器、輸送用機器など人命に係わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備、機器での使用は意図されておりません。これらの設備、機器制御システムに本製品を使用し、本製品の故障により人身事故、火災事故などが発生した場合、当社は一切責任を負いません。
- 本製品は日本国内仕様です。日本国外での使用に関し、当社は一切責任を負いません。

3. 安全上のご注意

安全にお使いいただくために必ずお守りください。

表示の説明

⚠ 危険	「誤った取り扱いをすると人が死亡または重傷*1を負うことがあり、かつ、その度合いが高いこと」を示します。
⚠ 警告	「誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷を負う可能性があること」を示します。
⚠ 注意	「誤った取り扱いをすると人が傷害*2を負う可能性または物的損害*3が発生する可能性があること」を示します。

＊1：重傷とは、失明やけが、やけど、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院や長期の通院を要するものを示します。
＊2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電を示します。
＊3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を指します。

絵表示の例	△	△記号は製品の取り扱いにおいて、発火、破裂、高温等に対する注意を喚起するものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。
		⃠記号は製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止するものです。具体的な禁止内容は図記号の中や近くに絵や文章で示しています。
		●記号は製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制するものです。具体的な強制内容は図記号の中や近くに絵や文章で示しています。

⚠ 警告

水にぬらさないでください。

風呂場、台所、海岸、水辺、屋外では使用しないでください。また加湿器を過度に効かせた部屋や、雨・雪・水がかかる場所での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因になるおそれがあります。

みずぬれ禁止

修理や改造、または分解しないでください。

火災、感電、またはけがをするおそれがあります。修理や改造、分解に起因する物的損害について、当社は一切責任を負いません。また、修理や改造、分解に起因する故障に対する修理は保証期間内であっても有料となります。

分解禁止

異常時は電源プラグをコンセントから抜いてください。

煙が出た場合、変なにおいや音がする場合、水や異物が内部に入った場合、本機器を落下させた場合はすぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、感電などの原因になるおそれがあります。

電源プラグを抜く

いたんだ電源コードは使用しないでください。

電源コードを傷つけたり、加工したり、ねじったりしないでください。また重いものをのせたり、本体の下敷きにならないようにしてください。芯線が露出したり断線した場合は、必ず新品のコードに交換してください。そのまま使用すると火災、感電などの原因になるおそれがあります。

禁止

⚠ 警告

誤った方法で設置・使用しないでください。

- 本機をさかさまにしたり、風通しの悪い場所で使用したりしないでください。
- 通気性の悪い場所へ押し込まないでください。

雷が鳴り出したら使用しないでください。

感電の原因になるおそれがあります。

指定された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。

本機ACアダプタの指定電源電圧は交流100～240ボルトです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。感電・火災の原因になるおそれがあります。

本機の落下時、破損時は必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると、感電・火災の原因になるおそれがあります。

電源プラグにホコリがつかないようにしてださい。

電気の火花がホコリに引火し、火災の原因になるおそれがあります。定期的にゴミやホコリを取り除いてください。

電源プラグは目に見える位置で、手が届きやすいコンセントに差し込んでください。

万一の際、すぐに電源プラグを引き抜けるようにしてください。

本機の上にものを置かないでください。

本機の上に花びんや植木鉢、化粧品や薬品、飲料水などが入った容器、ろうそく、および小さな貴金属やプラスチック、木片などを置かないでください。水や異物の混入は感電・火災の原因になるほか、接触面の外装を破損するおそれがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因になるおそれがあります。

直射日光があたる場所や、異常に温度が高くなるところへ置かないでください。

機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になります。夏の閉め切った自動車内や直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

湿気やほこりの多い場所へ置かないでください。

加湿器のそばや調理台の近く、その他ホコリの多い場所に設置しないでください。回路がショートして、火災・感電の原因となるおそれがあります。

専用のACアダプタ以外を使用しないでください。

火災・感電の原因となるおそれがあります。

ACアダプタを布やカバーで覆わないでください。

熱がこもり、ケースが変形し、火災・感電の原因となるおそれがあります。

⚠ 警告

電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。

差し込みが不十分のまま使用すると、感電やホコリの堆積による火災の原因となるおそれがあります。

ゆるみのあるコンセントは使用しないでください。

電源プラグを差し込んだ時、ゆるみがあるコンセントは使用しないでください。火災・感電の原因となるおそれがあります。

電源コードを引っ張らないでください。

コードが傷つき、感電・火災の原因となる場合があります。引き抜く場合にはプラグ部分を持って行ってください。

長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。

スピーカーが発熱し火災の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意

不安定な場所へ置かないでください。

ぐらついた台の上や傾いた場所などに置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがの原因になるおそれがあります。

薬物を使用しないでください。

ベンジン、シンナー、合成洗剤などで外装を拭かないでください。また接点復活剤を使用しないでください。外装が劣化するほか、部品が溶解するおそれがあります。

お手入れの際、長期間使用しない時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

安全のため、電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いてください。

外部機器の接続には取扱説明書をよくお読みください。

本機および、各機器の取扱説明書をよく読み、電源を切った状態で接続してください。

環境気温の急激な変化で、本機に結露が発生する場合があります。

正常に作動しない場合は、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

近くにブラウン管を置かないでください。

色ムラがおきる場合があります。

小さなお子様の手が届かないように本製品を配置してください。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、
下記注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

電池が液漏れしたとき

電池の液が漏れたときは素手で液をさわらないでください。液が目に入ったときは、失明の原因になることがありますので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い、速やかに医師の診断を受けてください。液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になることがありますので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状が現われたときには、ただちに医師の治療を受けてください。

⚠ 警告

機器の表示に合わせ、＋と－を正しく入れてください。

強制

火、水の中に入れないでください。

禁止

充電しないでください。

禁止

分解、加熱しないでください。

禁止

コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しないでください。

禁止

液漏れした電池は使わないでください。

禁止

使いきった電池は取り外してください。
長期間使用しないときも取り外してください。

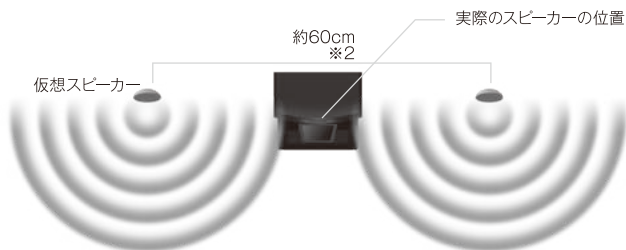
禁止

指定された電池以外は使用しないでください。

禁止

4. 特長

●ワイドに広がる 「マジックスピーカー」テクノロジー搭載 ※1

スピーカーユニットの実際の位置よりも左右に配置されているように聴こえる「マジックスピーカー」テクノロジー搭載。スリムな筐体ながらワイドなサウンドを実現しました。

●直径46mmアルミコーンスピーカー、バスブースト回路搭載

音の表現力に優れたアルミコーンスピーカーを採用。また本体にバスレフ構造とバスブースト回路を設けることで力強い低音再生を実現しました。

●FM ラジオチューナー内蔵

最大7局分の周波数をプリセット登録可能。お好きな放送局を簡単に呼び出せます。

●時計表示・多機能アラーム搭載

アラーム時刻・曜日の設定が可能。設定した時刻に”Walkman”やFMの自動再生をはじめます。スヌーズ機能搭載でアラームを止めても5分後に再び自動再生をおこないます。

●スリープタイマー搭載

リモコン操作により、約30/60/90分間のスリープタイマー（自動電源オフ）を設定できます。

●離れたところから操作できるマルチリモコン付属

赤外線リモコン標準装備で離れたところからスピーカーのボリューム調整、”Walkman”再生/停止、曲送り/曲戻し、アラーム設定などが可能です。

●直径3.5mmステレオミニプラグケーブル付属

直径3.5mmステレオミニプラグケーブルを使用すれば、”Walkman”以外のオーディオプレーヤーとの接続も可能です。

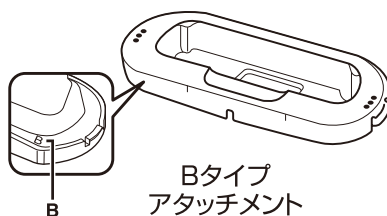
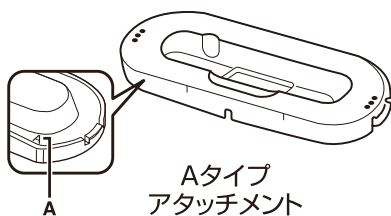
※1「マジックスピーカー」テクノロジーには、新日本無線株式会社の３Ｄ音響技術を使用しています。
※2 距離は目安です。広がりの効果は、再生する音源により異なります。

”Walkman”対応機種

WM-PORT搭載の”Walkman”に対応しています。

※NW-S703F/S705F/S706F/S603/S605には対応していません。

付属アタッチメントの対応機種については下記の表を参照ください。
（2011年6月現在）
下記以外の機種については”ウォークマン”付属のアタッチメントをご使用ください。

アタッチメント	シリーズ	モデル名	
Aタイプアタッチメント	Aシリーズ	NW-A820シリーズ	NW-A829/A828
		NW-A800シリーズ	NW-A808/A806/A805
	Sシリーズ	NW-S730FKシリーズ	NW-S738FK/S736FK
		NW-S730Fシリーズ	NW-S739F/S738F/S736F
		NW-S630Fシリーズ	NW-S639F/S638F/S636F
		NW-S630FKシリーズ	NW-S638FK/S636FK
Bタイプアタッチメント	Aシリーズ	NW-A910シリーズ	NW-A919/A918/A916
	Sシリーズ	NW-S710Fシリーズ	NW-S718F/S716F/S715F
		NW-S610Fシリーズ	NW-S616F/S615F
	Xシリーズ	NW-X1000シリーズ	NW-X1050/X1060

Walkmanの対応状況については、携帯サイトでご確認いただけます。
http://dvd.maxell.co.jp/speaker/mxsp2200wm/

5. 各部の名称と機能

<本体正面>

＜天面＞

スヌーズボタン
SNOOZE
MODE
電源スイッチ
ボリューム（＋）ボタン
ボリューム（－）ボタン
モード切換ボタン
Walkman、FMチューナー、
AUX（外部入力）を
切り換えます。

＜背面＞

オーディオ入力端子
付属のオーディオケーブルにより
お手持ちのオーディオ機器を
接続します。
FMアンテナ端子
付属のFMアンテナを
接続します。
ACアダプタ端子
付属のACアダプタを
接続します。
DC12V
LINE IN
ANT

＜リモコン＞

電源ボタン
モード切換ボタン
FMプリセットボタン
セットボタン
時刻設定ボタン
タイマー設定ボタン
ボリューム（+）ボタン
ボリューム（−）ボタン
曲戻しボタン
再生／一時停止ボタン
曲送りボタン
スリープ設定ボタン
アラームタイマーボタン
マジックスピーカー切換ボタン
バスブースト切換ボタン
消音ボタン

MODE MEMORY SET CLOCK TIMER SLEEP MUTE BASS

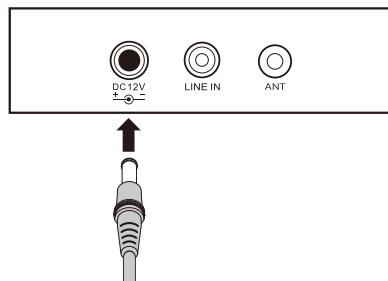
maxell

＜液晶表示＞

6. スピーカーの準備をする

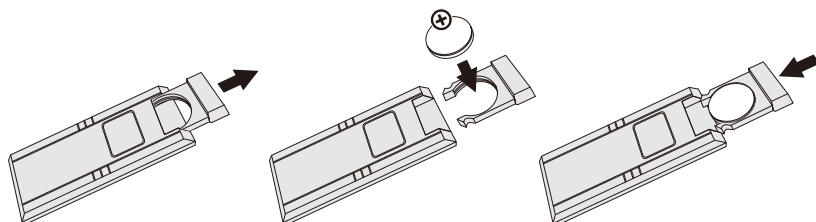
1. ACアダプタを接続する

本体背面のACアダプタ端子に付属のACアダプタを接続します。

※警告 付属のACアダプタ以外は使用しないでください。

2. リモコンを準備する

1．リモコンの電池トレーをスライドさせます。

2．ボタン電池（CR2032）を入れます。

※付属のリモコンには、おためし用電池があらかじめ入っています。
初めてご利用の際には、電池トレーを開け、絶縁シートを取り出してご利用ください。

3. クロック（現在時間）を設定する

①リモコンの CLOCK を長押し（約 2 秒）します。
点滅している曜日を、 で選んで
SET で決定します。

表示	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
曜日	日	月	火	水	木	金	土

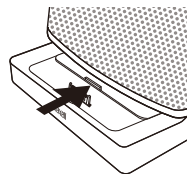
②次に点滅している時間を ＋ － で合わせて
SET で決定します。（時間は12 時間表示です）

③次に点滅している分表示を   で合わせて
SET で決定します。

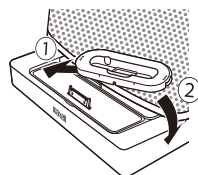
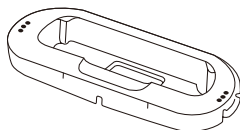
※約15 秒間操作がない場合、または途中で CLOCK を押した場合は通常の時刻表示画面に戻ります。再度設定を行ってください。

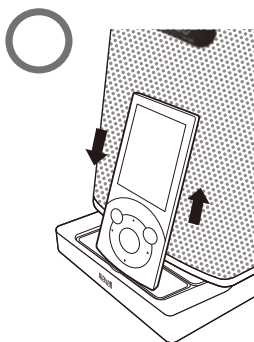
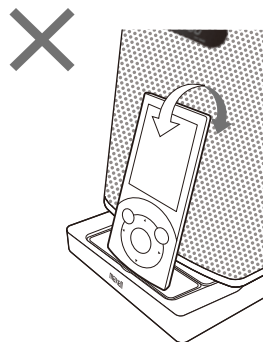
7. ”Walkman”で音楽を聴く

1. フタをあける

スピーカー本体の下部にあるフタを後方にスライドさせて開けます。フタは固定式ですので、後方に固定されるまでスライドさせてください。

2. アタッチメント装着

WM-PORTの破損を防ぐために、お手持ちの"Walkman"に付属のアタッチメントか、本機に付属の2種類のうちから対応しているものを選び装着してください。アタッチメントの装着はWM-PORTコネクタ穴の左側をはめ込んでから、反対側を押し込んでください。付属アタッチメントの対応機種については9ページの"Walkman"対応のアタッチメント対応表をご参照ください。

※ アタッチメントを取り外すには、アタッチメント左右にあるマーク ●●● のどちらかを押して取り外します。

3. “Walkman”を接続する

お手持ちの”Walkman”コネクタとスピーカー本体のコネクタ端子を合わせて接続します。

コネクタ接続部の向きにそって抜き差しする。

矢印の方向に力を加えない。故障の原因となります。

4. “Walkman”モードに設定する

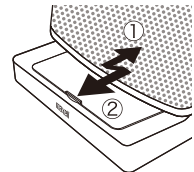
本体またはリモコンの MODE ボタンを押し、モードを”Walkman”に設定します。

5. 音楽を再生する

“Walkman”本体のメニュー操作で音楽を選択して再生します。スピーカー本体またはリモコンの音量調節でお好みの音量に調節してください。
リモコンの ⏭ ボタンを押すと曲送り、長押しすると早送りができます。また ⏮ ボタンを押すと曲戻し、長押しすると早戻しができます。

※Bluetooth内蔵の"Walkman"はBluetooth設定をOFFにしてください。
※"Walkman"によっては、"Walkman" 起動時にスピーカーからノイズが出ることがありますが故障ではありません。
※ラジオまたはワンセグチューナーを内蔵した "Walkman" を接続した場合、放送が受信できない、または感度が大幅に低下する場合があります。
※"Walkman" 接続中は"Walkman"のヘッドホンからは音は出ません。

6. 音楽を聴き終えたら

音楽を聴き終えたら、”Walkman”を停止させ、スピーカー本体の電源をOFFにしたのを確認してから、”Walkman”を取り外します。
”Walkman”を取り外した後、フタを閉めます。フタは固定されていますので、フタを後方に押して固定を解除してから、前方にスライドしてフタを閉めます。

8. マジックスピーカー・バスブーストを使用する

1. マジックスピーカー

リモコンの ((•)) ボタンを押し、マジックスピーカーのON/OFFを切り換えます。本体の液晶に ((•)) が表示されれば、マジックスピーカーがONの状態となり、ワイドに広がるサウンドをお楽しみいただけます。

※マジックスピーカーは、試聴する曲や環境により効果に差があります。またモノラル音源では効果はありません。

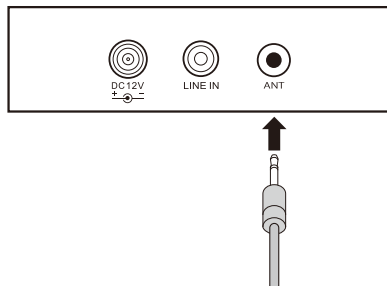
2. バスブースト

リモコンの BASS ボタンを押し、バスブーストのON/OFFを切り換えます。本体の液晶に BASS が表示されれば、バスブーストがONの状態となり、迫力ある低音をお楽しみいただけます。

9. FMラジオを聴く

1. FMアンテナを接続する

付属のFMアンテナを本体背面のFMアンテナ端子(ANT)に接続します。アンテナの方向により受信状態を最良となるようにセットしてください。

DC12V LINE IN ANT

2. FM受信モードにセットする

リモコンの MODE ボタンを押し、モードを「FM」にセットします。

3. 選局（チューニング）する

リモコンの ⏮ ⏭ ボタンで聴きたい放送局を選びます。
（76.0MHｚ～108.0MHｚ／0.1MHz単位）

※ チューニングされる局がなく自動選局を止める場合は MODE ボタンを押し別のモードにしてください。

4. お好きな局をメモリーする

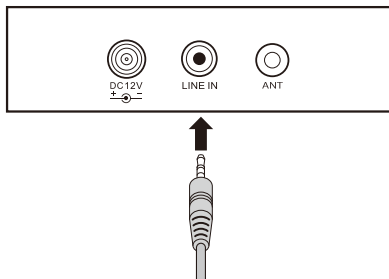
リモコンの ⏮ ⏭ ボタンでメモリーしたい放送局を選びます。リモコンの SET ボタンを押して離すと液晶に MEMORY 表示が点滅し、次に SET ボタンを押すとメモリー１に登録されます。同じ手順を繰り返して、最大７局の放送局をメモリーすることができます。

5. メモリーした放送局を聴く

リモコンの MEMORY ボタンを押すとメモリー１の放送局が選択されます。続けて押すとメモリーした放送局がメモリー２・３・４・・・７の順で選択されますので、メモリーした放送局を選択し聴くことができます。メモリー７からさらに MEMORY ボタンを押すとメモリー１に戻ります。

10.”Walkman”以外の機器で音楽を聴く

1. ステレオミニプラグケーブルを接続する

付属の直径3.5mmステレオミニプラグケーブルの一方を本体背面の外部オーディオ入力端子（LINE IN）に接続し、もう一方をお手持ちのオーディオ機器に接続します。

2. 外部オーディオ入力モードに設定する

リモコンの MODE ボタンを押し、モードを外部オーディオ入力モード（AUX）に設定します。

3. 音楽を再生する

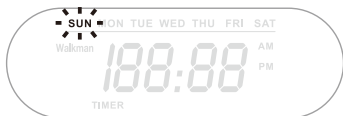
接続した機器を操作し音楽を再生します。

※接続した機器の音量を大きく設定すると、音が割れたりひずんだりすることがありますので、小さい音量から調整してください。

※リモコンの ▶II、I◀◀ ▶▶I ボタンは”Walkman”専用のボタンです。外部オーディオ入力では機能しません。

11. アラームタイマー/スリープ機能を使用する

1. アラームタイマー時刻・曜日を設定する

①リモコンの TIMER を長押し（約 2 秒）します。
点滅している曜日を ⏭ で任意に選んで SET で決定します。
セットしない曜日については ⏭ を押して時間設定に移行してください。
（平日のみ目覚ましを使うなどの設定ができます）

②次に点滅している時間を ＋ － で合わせて SET で決定します。
（時間は12 時間表示です）

③次に点滅している分表示を ＋ － で合わせて SET で決定します。

※約15 秒間操作がない場合、または途中で CLOCK を押した場合は通常の時刻表示画面に戻ります。再度設定を行ってください。

④時刻の設定が終わったら 🔔 を押して、液晶表示のマークを確認します。
（もう一度 🔔 を押すとアラームが OFF になります）

2. アラームタイマーを使用する

[ボタン] ボタンを押して、液晶に [アイコン] 表示がでればアラームタイマーが設定されます。

※アラーム音源は、スピーカー本体に"Walkman"を接続している場合は"Walkman"が再生され、"Walkman"が接続されていない場合はFMが再生されます。

※アラーム音量は、最後に使用した音量で設定されますので、適当な音量に設定してください。

※アラームタイマー設定中に停電などで電源が切れた場合には時刻･曜日がリセットされるため、タイマー機能も動作しません。

3. アラーム音を止める

1．アラームを一時停止する（スヌーズ機能）

アラーム中にスピーカー本体天面の中央にある SNOOZE ボタンを押すと、アラームは一時停止状態となりiPod/iPhoneまたはFMの再生を停止します。アラームは一時停止しますが、スヌーズ機能が動作していますので、５分後に再び再生をはじめます。スヌーズ機能は次の項「2.アラームを止める」を操作するまで継続します。

2．アラームを止める

本体またはリモコンの [電源] ボタンを押して本体電源を切ります。

4. スリープタイマーを使用する

リモコンの SLEEP ボタンを押して、スリープタイマーを設定します。　設定時間は、SLEEP ボタンを繰り返して押すことにより、３０分→６０分→９０分→OFFの順で設定されます。スリープタイマーセット後に時間変更する場合は、SLEEP ボタンを押すと設定がＯＦＦ(解除)されますので、あらためて SLEEP ボタンを押して再セットしてください。

12. 故障かな？と思ったときは

「故障かな?」と思ったときは、下記の項目をチェックしてみてください。

症 状	対 策
電源が入らない	・ACアダプタとスピーカー本体および電源ソケットとの接続を確認してみてください。
“Walkman”がセットできない	・お使いのアタッチメントが”Walkman”に合っているか確認してみてください。 ・WM-PORTコネクタに異物がないか確認してみてください。
音がでない	・”Walkman”が正しくWM-PORTコネクタにセットされているか確認してみてください。 ・”Walkman”が再生状態か確認してみてください。 ・再生モード（Walkman/FM/AUX）があっているか確認してみてください。 ・ボリュームを調整してみてください。 ・接続するAV機器などとの接続を確認してみてください。 ・接続するAV機器などの電源やボリュームを確認してみてください。
音がひずむ	・本体の音量を下げてみてください。 ・接続した機器の音量を下げてみてください。 ・接続した機器のバスブーストなどの機能をオフにしてみてください。
ノイズが大きい	・接続する機器との接続を確認してみてください。 ・テレビなどの音が出る機器から離してみてください。 ・テレビなどの機器とは別のコンセントを使用してみてください。
FMのノイズが大きい	・FMアンテナが接続されているか確認してみてください。 ・接続したアンテナを伸ばして向きをかえてみてください。 ・受信する周波数をかえてみてください。
リモコンがきかない	・リモコンと本体の距離を近づけてみてください。 ・リモコン信号を遮る障害物がないか確認してみてください。 ・リモコンの電池の向きを確認してみてください。 ・リモコンの電池残量を確認してみてください。

動作や表示の問題が解決しない場合は、ACアダプタをはずして接続しなおしてみてください。
スピーカー本体の設定が初期状態にリセットされます。

13. 仕様

製品仕様

型番	MXSP-2200WM
実用最大出力	4.2W+4.2W
再生周波数特性	70Hz～20kHz
スピーカーユニット	防磁型46mmアルミコーンスピーカー
FM受信周波数	76.0MHz～108.0MHz
入力端子	WM-PORTコネクタ端子 Φ3.5mmステレオミニプラグ端子 Φ2.5mmFMアンテナ端子
電源	ACアダプタ　12V/1.5A
外形寸法	幅120×高さ189×奥行き136mm（突起部含まず）
質量	約800g
付属品	ACアダプタ、赤外線リモコン（CR2032×１個付き） Φ3.5mmステレオミニプラグケーブル（約30cm） FMチューナー用アンテナケーブル 取扱説明書(保証書付き)

●記載の内容は2011年5月現在のものです。
●製品の仕様およびデザインは改良のため予告なく変更する場合があります。
●本製品はソニー株式会社の公式ライセンスプログラム Designed for Walkman®に準拠しています。
●”Walkman”、”Walkman”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

14. 保証とアフターサービス

■ 保証書に関して

保証書はかならず「販売店・お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店からお受け取りください。また、保証書はよくお読みの上で、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日から１年間です。

■ 本製品に関するお問い合わせ先

本製品に関するご質問がございましたら、下記までお問い合わせください。

日立マクセル株式会社
〒102-8521
東京都千代田区飯田橋2-18-2

お客様ご相談センター
TEL.(03)5213-3525
FAX.(03)3515-8261

http://www.maxell.co.jp

無料修理規定

1. 万一製造上の理由により本製品が故障した場合は、この保証書を添えてお買い上げ店にお届けください。正常なご使用状態で購入後１年以内であれば、当社にて無料で修理または交換いたします。なお、お届けいただく際の運賃などの諸費用はお客様にご負担願います。
2. 保証期間内でも次のような場合には有料になります。
   1）ご依頼の際、保証書の添付がない場合。
   2）使用上の誤り（取扱説明書、取扱上の注意事項以外の誤操作など）により生じた故障。
   3）修理・改造・分解などによる故障。
   4）お取り扱い上の不注意（落下、衝撃、水掛かり、砂・泥の付着、機器内部への水、砂、薬品の入り込みなど）、手入れの不備（カビ発生、チリ・ホコリ等）による故障。
   5）本体以外の付属品および消耗品。
   6）一般用途以外（例えば、業務用の著しい連続使用、船舶への搭載など）に起因する損傷。
   7）故障の原因が本製品以外（供給電源など他の機器）にあって、それを点検・修理した場合などの損傷。
   8）前記以外で当社の責に帰することのできない原因により生じた故障。
3. 本製品の故障に起因する二次的な損害（期待した利益の喪失、精神的な損害など）の補償については、当社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。
4. 本保証書は日本国内のみにおいて有効です。

This warranty is valid only in Japan.